



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



JAPAN HERITAGE

日本遺産

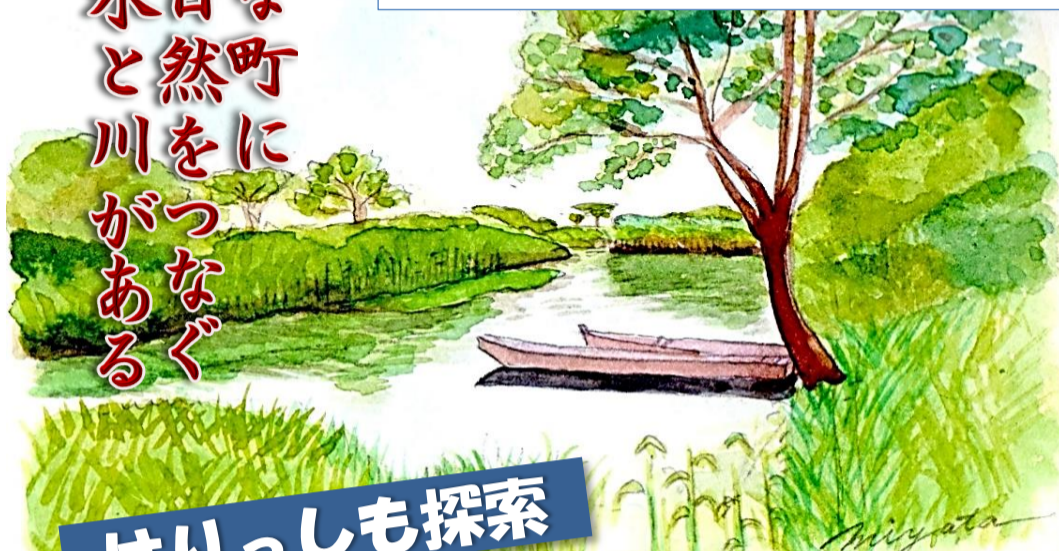
はりっしも
Harisshimo vol.7 2018.3

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

湧人小
きとさ
水自な
と然町
川をに
がつな
ぐ
がある

Message

針江・霜降地域は、国の「日本遺産」・「重要文化的景観」の選定を受けています。



はりっしも探索

針江・霜降地域には、水辺景観のまちづくりにご協力いただいている方がいろいろな分野でおられます。今回は、私たちの重要文化的景観の保存・活用の鍵となる、景観計画が専門で文化遺産に造詣の深い小浦久子教授にご登場いただきました。

■針江で、ふつうの暮らしの中に湧水が当たり前のように組み込まれている風景に出会ってから15年近くが経ちました。何度か訪れると、季節や時間帯ごとに異なる風合いに出会いました。そして時間の経過とともに、少しずつ変化しているようにも感じます。人は歳をとり、生業が変化し、暮らしのあり方も少しずつ変わります。ゆっくりとカバタとのつきあい方も変わっていくかもしれませんが、これまで水道が敷設されてもカバタが生きているところが大事なのです。ただ、湧水を使うというだけではない、季節ごとの水の恵み、生き物（鯉）との共生、琵琶湖とのつながりなど様々な水の価値を、暮らしの知恵として知らず知らずのうちに引き継いできたのだと思います。

文化的景観は、自然と人の関係が表れる風景であり、こうした針江や霜降に住む人々にとっては当たり前のことが、とても大事なことだと気づくことから始まります。長い時間の中では自然も人の生活も変化しますから、それが風景に現れてきます。変化をとめる「保存」ではなく、生き続けてきた大事な水の価値を継承する「保全」のために、良い変化を探したいと思います。新しい人が入ってきて、新しい家を建て新しいカバタの表現が現れるとしても、湧水のしくみが継承され、周辺の暮らしの風景と馴染むならば、その変化は大丈夫。

「水とともに暮らす 良い変化のための取り組みを」

神戸芸術工科大学 大学院芸術工学研究科 教授 小浦 久子

●プロフィール：KOURA Hisako

工学博士。専門は、都市計画・景観計画。大阪大学工学部助手・准教授を経て現職。景観を都市空間の文化ととらえ、土地利用や都市計画の観点から調査研究を進めるとともに、自治体の景観への取り組み等を支援することにより、景観・都市計画分野での実践的な取り組みを行っている。文化審議会世界文化遺産部会委員、高島市重要文化的景観整備活用委員会委員。



針江・霜降の水辺景観

「未来を語る会」開催しました！



■平成29年11月12日（日）の午後、針江公民館2階大広間において「針江・霜降の水辺景観 未来を語る会」が開催されました。これは、現在、市と市が設置する高島市重要文化的景観整備活用委員会が策定を進めている『高島市重要文化的景観整備計画』に載る予定の、重要文化的景観選定地域の将来像を、住民の皆さんで語り合っていたら、という目的で開催されました。

当日は、針江・霜降両区民のみなさん約40人にお集まりいただき針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会の足立会長の進行のもと、市文化財課からの計画策定の目的等の説明、針江生水の郷委員会の三宅会長の現状報告の後、4グループに分かれて、住民が望む針江・霜降

地域の将来像について、意見を出し合っていました。

日頃の生活の中で、自分たちの住む地域の「未来」や「将来像」について考えることなどはあまりないと思いますが、この日は無理なテーマ設定をお願いしたにも関わらず、みなさんがそれぞれの言葉で、地域に望む将来の姿や期待することを出し合ってくれたように感じました。

◀「針江・霜降の将来像について」主な意見抜粋▶

- 重要文化的景観地域として、針江・霜降両区が楽しめることがあるといい
- 霜降区も見学者が増えているので、会議所や行者堂周辺の修繕が必要
- 将来的にも観光地化はしたくない
- 背伸びをしないで地域の持続を目指したい
- 集落内の川や水路は、この先も子どもが元気に遊べる川であってほしい
- 集落の景観を守るために必要な建物やカバタについては重要文化的景観の重要な構成要素への追加選定を考えたい

（高島市教育委員会文化財課：山本晃子）